

# Domnung Pii SCHEC

ドムヌン ピー シェック  
～ シェックからの便り～

第1号(2004年1月号)

NPO法人カンボジアの健康及び教育と地域を支援する会  
(SCHEC)  
〒160-0004  
東京都新宿区四谷4-3-29  
伸治ビル4階  
Tel・Fax 03-5368-6387

こんにちは、NPO法人SCHECでは、毎年、11月と3月にカンボジアへ赴き、歯科医による歯科診療種や、井戸の設置状況の視察、小学校の建設事業の確認などを行っています。そうした活動を本紙でご紹介していきます。今回は03年11月の活動を中心に、これまでの活動の様子も含めて報告いたします。 事務局

## 強い絆の下、今後も充実した活動を



理事長 河野 篤  
平成14年6月14日、これまでの実績が認められ我々は、特定非営利活動法人(NPO法人)として内閣府から認証されました。同年11月から活動を開始し、井戸掘り事業では、皆様のご協力によりこれまでに300本以上の井戸をシェムリアップ州の人々に提供することができました。又、当会のもうひとつの活動の柱であります歯科医師派遣事業も、平成14年11月より活発に活動を展開しており、既に3回の歯科医師派遣を行い、電気も無い劣悪な診療環境の中で、多くの患者さんを診療しています。さらに現地の学校の視察・見学を行い痛感したのが、教育活動への支援、圧倒的に足りない小学校校舎の建設の必要性です。こうした活動を通じて、当会の目的であるカンボジアを中心としたアジア諸国民の健康と環境改善の向上に寄与する大きな第一歩が踏み出され、確かな成果を上げることができたことは大きな喜びです。これは一重にそれぞれの事業への絶大なご支援を賜った皆様、多忙の中を現地の診療に時間を割いて協力して下さった歯科医師の皆様を始め、この間ご指導、ご協力を頂きました多くの方々のお陰です。全ての皆様に改めて感謝し、心よりお礼申し上げます。また本会の特徴は、カンボジア王国国会議員 SEANG NAM 氏との強い絆です。今後もこの絆を大切に、一層強固なものとしながら活動の内容を充実させたいと思います。更なるご支援をお願いして、ご挨拶と致します。

## 手術用麻酔器の寄付と講習会

今回、真興交易様より手術用麻酔器を6台、ご寄付いただきました。総合病院での贈呈式の後、現地医師数名に対し、関田俊介医師(鶴見大学歯学部専任講師)による説明会が開かれました。

### レポート 関田俊介

現地(シェムリアップ)で麻酔器6台の贈呈式が行われ、そのうちの1台が送られた総合病院に説明を兼ねて伺いました。まずびっくりしたのは庭に面した渡り廊下から直接手術室に入る構造でした。クリーンルームにはならないでしょう。天井の梁がない様で天吊型の无影灯はありません。スタンド型のものが2台ありました。電気メスは壊れ、吸引器はポーランド観光客寄贈の足踏み式のみ。麻酔器はすでにドイツ・ドレーゲル社のものが1台ありましたが、麻酔器に必要な器材、薬剤は無く、ポンペンにあるが高くて買えないとのことでした。酸素だけはポンペンで買ってくるそうです。静脈麻酔が主流で、つぎはぎだらけ

のレサシバックに酸素をつないで人工呼吸を行います。つまり麻酔器はあっても本来の機能は発揮できず、酸素吸入器の役目のみ。そして、全身麻酔に必要な器材は1組のみ、1日に手術が数件あったら消毒はどうするの? 壊れたら替えが無い。贈った麻酔器が本来の役目に近づ



麻酔器寄贈の様子が現地新聞に掲載されました。

## SCHEC 記念すべき第1校目

### ～バンテアイスレイ・サンキム小学校開校式～

吉田嘉子さんのご寄付により、シェムリアップ州ソートニコム郡ドームレック地区バンテアイスレイ村に小学校校舎を寄贈することができました。小学校の校名は、吉田さんのご希望により、「バンテアイスレイ・サンキム小学校」(「サンキム」とはカンボジア語で「希望」という意味です。)となりました。



寄贈された新校舎

11月24日に5名の僧侶の立会のもと、児童生徒、父母、多数のご来賓の参列を得て厳かに開校式が執り行われました。ご来賓のシェムリアップ州副知事によれば、「州内では毎年2千人の子供が入学するが、学校はまだ500校舎が不足している。」とのことでした。早急な小学校校舎建設支援が必要なことを痛感しました。開校式の後には、全校児童300人を対象に、歯科検診を行い、また、小学5、6年生には、ブラッシングの指導もおこないました。

04年3月には、現在お寺の境内の高床式の宿舍の床下で230人もの子供が授業を受けていて、さらに200人の待機児童がいるササースダム地区クチアイ村に東京都の渋谷さんのご寄付により校舎を建設する予定です。

### カンボジアの未来へ

吉田嘉子

ふと見た新聞にカンボジアの井戸掘りの記事が出ていたのがきっかけでSCHECを知りました。井戸だけでなく学校も足りない聞き、今回寄付をしました。仕事にも恵まれて、来年は還暦を迎えるし、自分の中では一つの区切りとして記念になるかなと思っていました。お礼の電話が河野理事長からあり、その時までには、現地に行くなんて思ってもいりませんでした。ジャーナリストの田口さんがいろいろと骨を折ってくれて、行くことができました。

30名からの人達と一緒に、井戸掘り、歯の治療などを視察しました。井戸掘りも体験しましたが、なかなか力が入らず難しかったです。帰国する前日に開校式があって、大勢の生徒さんたちが拍手で迎えてくれて、恐縮しました。もう成人のような人もいて、またびっくり。聞くと、生徒さんだそう。私も小さいころはかなり貧しかったのですが、義務教育だけは行きました。

カンボジアの街は、戦後の日本のような雑然とした活気があり、農村では、明るい空と田んぼが広がっていて、将来的にはいいのではないかと感じました。又、機会があったら行ってみたいと思います。

ため現地で簡単に調達できる器材、薬剤で使えるように整備してあげなくてはと思っています。現地の歯科医師に聞いたところ、シェムリアップ州(人口70万人)には大学で正規に教育を受け歯科医師免許を所持しているのは3人だけ、その他は先輩から教わって開業(無免許)しているとの事でした。そして外科処置(抜歯)が許されるのは免許を持っている人だけだそう。 (現在外国の歯科医師免許を持っていれば歯科治療は許されるとの事でした。)そのため歯科治療はほとんどが抜歯になってしまいます。診療活動に参加されている先生方の間では「何とか1回の診療で抜歯を遅らせて歯が保存できるような処置は無いものか。」と現地事情を考慮しながら模索していました。

# 井戸掘り報告

**330世帯で  
きれいな水が使える  
ようになりました。**

今回もシェムリアップ州の14の村に71本の手押しポンプ付き井戸を掘ることができました。そのうち1本は当会からバンテアイスレイ・サンキム小学校の校庭に寄付しました。合計利用世帯数は330世帯となります。ご寄付いただいた方々には、お写真を12月16日に発送いたしました。井戸1本あたり、3～5枚くらいのお写真をお送りしていますので、発送作業に多少お時間を戴いておりますが、ご了承ください。



井戸視察に興味津々で集まってくる子供たち

ご寄付いただいた井戸の看板のお名前、メッセージからは皆様の

温かいお気持ちが伝わってきます。皆様の大切な思いが込められている井戸ですので、間違いなくお写真をお手元にお届けしなくてはと、撮影の段階から身の引き締まる思いで作業しております。

井戸視察に農村を訪れますと、キラキラ輝く瞳をした子供たちが大勢集まってきます。彼らが健康に成長してくれることを願ってやみません。



井戸を使う家族と寄贈者で記念撮影

**斉藤典子さん指導「初めてののはみがき」**  
『日本から一緒に来た"とんちゃん"です』と、エプロンシスターを見せたとき、子供たちはとてもビックリして喜んでくれた。なぜ虫歯になるのか、なぜ歯磨きが必要なのか、子供たちがどれだけ理解してくれたのかわからないが、楽しい時間を過ごすことができた。日本の豊かさは本当に幸福と言えるのか、子供達の澄んだ瞳を見て考え込んでしまった。アンコールワットで見た日の出、バスの中での語り、暑さの中での診療、そして診療の後の充実感。自分のできることは小さなことであっても、皆が一つになればとても大きな



チームになることができる。皆様に感謝です。

斉藤典子

教室で歯の模型を使ってブラッシング指導をする歯科衛生士の斉藤さん(左)と、通訳して下さった福富友子さん(右)。

## 歯科医師 20 名が参加！ 3 日間で約 500 名に歯科診療

歯科診療活動は11月21～23日の間、歯科医師20名で、合計約500名もの患者さんを診察しました。若い研修医も手弁当での参加です。また、今回は、歯科衛生士1名とお手伝いの方も数名参加してくださり、大チームとなりました。歯科医の方たちは、炎天下の中、白衣、帽子、マスク、手袋姿で汗びっしょりになりながら、患者さんを診療にあたっていました。



通常は歯科診療など受けることなどままならない現地ですから、予想以上に受診希望者が集まり、麻酔薬や抗生剤を買い足さなければならぬ程でした。しかし環境が整っていない現地での治療には様々な困難もあります。石垣佳希医師よりご意見をいただきました。

「現在、私は日本歯科大学病院に講師として勤務しております。SCHEC理事の永井厚先生とのたわいもない会話をきっかけに深慮もせず2002年秋、はじめて活動に参加させていただきました。実際参加してみると現地の歯科事情は惨憺たるもので、虫歯は沢山あるものの金銭的な問題(ある村では彼らの月給と1本の抜歯が同等)や歯科医師不足のため治療がなされていないという状況でした。その時は私を含めた歯科医師

5名で治療にあたりました。必要最低限以下必要最低限以下の器具と市内でなんとかかき集めた薬剤を手にし水も電気もない場所での青空診療で約250名の患者さんを治療しました。終わった時にはそれなりの満足感がありましたがある種のジレンマにも苛まれました。それは限られた環境下での治療の為、日本では当然のように治療することで残し得る歯を抜歯せねばならなかったことでした。歯ブラシの習慣もないこの町で歯科衛生を普及させるにはまだまだ何十年もかかることでしょう。その為にはまずは治療体制を確立し、人々のためになる治療活動を展開していきたいという思いを胸に今後も参加し続けたいと考えています。」



### 風光る ~ ~ ~

今回、正会員の篠崎徳量・久恵ご夫妻が歯科診療のお手伝いのため、視察旅行に参加してくださいました。

「10年ぶりのシェムリアップは、浦島太郎が戻ってきた時がこんな感じだろうと思われました。賑やかになった町並み、人の往来は、平和になったのを感じましたが、一方で、歯の治療に来る人達は、40代以上は読み書きができず、また、3割くらいは、ハダシの状態でした。医者も少ない、教育も十分でない、ゆる基盤整備がこれからのカンボジアに我々がやるべきことが、たくさんあることを感じて帰ってきました。」



篠崎徳量



### 総勢30名が勢揃い

今回の参加者全員のスナップ  
今回は総勢30名が参加し、当会のカンボジア支援活動始まって以来の大支援団を結成することができました。オーケン



### 開校式で歌のプレゼント

今回の最年少参加者、腰越まゆ子さんが、小学校開校式で「早春賦」とシューベルトの「野ばら」を歌ってくださいました。大学で声楽を専攻している腰越さん、その華奢な体からは想像もつかない程の音量で美しく張りのある澄んだ歌声を響かせてくださいました。児童生徒をはじめ来賓の方々も、じっと聴き入っていました。

【お知らせ】 篠崎徳量さんが、今回の体験を冊子にまとめてくださいました。「カンボジアで歯医者さんボランティア奮戦記」。ご希望の方は、奮戦記希望とお書き添えの上、1冊あたり切手400円分(コピー代、送料)を同封してSCHEC事務局へお送り下さい。

【事務局より】 今回の視察旅行の合間に、一ノ瀬泰造さんのお墓参りをすることができました。一ノ瀬さんは、内戦中の1974年、クメールルージュ占拠下のアンコールワットの写真を撮るため突入し、この地で亡くなられたカメラマンです。お墓の周りほのどかで美しい風景がひろがり天国のようなところでした。墓前にご冥福と世界の平和をお祈りしました。も

